

尚綱総研論集第2号の刊行に当たって

尚綱学院大学総合人間科学研究機構機構長
尚綱学院大学学長

合 田 隆 史

尚綱総研論集第2号を刊行するに当たり、まずもって本論集刊行にかかわったすべての関係者の多大なる努力に心から敬意を表するものである。

振り返れば、本学における教育改善及び社会貢献に関する研究の推進を目的として、本学前学長佐々木公明氏の発案により、2012年4月に「尚綱学院大学総合人間科学研究所」が設置された。その後、2016年には本学における研究全般の統括が目的として追加された。

2017年2月には、布木和夫本学大学院総合人間科学研究科研究科長（当時）を中心とする意欲的な学会代議員の先生方及び教育研究支援課の皆さんの尽力により、大学及び大学院研究科における総合人間科学の学理と応用の研究を通じ、広く学術文化の発展に寄与することを目的として、「尚綱学院大学総合人間科学会」が創設された。これにより、本学ならではの研究課題に関して、研究成果の身近な発表の場と会員相互の切磋琢磨の機会が提供されることとなった。

2017年4月には、研究所の構成組織として、「環境デザイン教育研究センター」及び「アクティブ・ラーニング研究・実践センター」が設置された。

2018年には、学内紀要とは別に、研究所として独自の論文集の編纂刊行を開始することとした。これは、大学教育の改善や社会貢献という本研究所の目的を十全に達成するため、本格的な学術論文のみならず、学外者を含め様々な立場にある意欲ある研究者・実務家、実践者からの様々な提案や実践報告、それらに対する批判的・建設的な批評などが活発に行われることを期すると同時に、様々な分野の研究者が一つのキャンパスに集う本学の強みを最大限に生かすことを狙いとしたものである。

他方、学会においては、学会学術集会で発表された研究の成果を論文として掲載するため、2018年2月、独自に学会設立記念論集を刊行した。

このような研究所の充実を踏まえ、2019年4月の全学改組に合わせ、「子ども発達支援センター」及び「紀要編集委員会」をもその傘下に加える形で、同研究所を「総合人間科学研究機構」に改組することとした。さらに同年10月には、同機構に「造形センター」が設置され、本年4月には地域教育研究センターもその傘下に加わり、5センター・1委員会に加え学会の事務局を兼ねるといった充実した構成となることが予定されている。

このような経緯を踏まえ、今回は、研究所論集と学会論集とを統合し、尚綱総研論集第2号として刊行することとしたものである。なお、多くの利用者の便宜を考慮して、今回から冊子体ではなく JAIRO Cloud を利用してネット上での公開とすることとした。ご理解賜りたい。

本論集が活用され、本学及び社会の発展に資することを心から願うものである。